# 4．効率的な事業執行

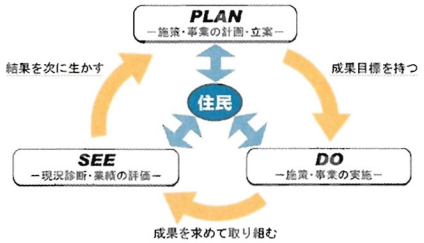
成果目標の明示や事後評価の実施を通じて透明性の向上を図るとともに、コスト縮減等による効果的な事業執行に努めます。

## 事例1　成果主義の実践～道路行政での取り組み例

平成15年度より、成果を重視した道路行政運営のしくみ(道路行政マネジメント)を導入し、5年後の成果目標、供用目標を示した「5年で見えるみちづくり～東北のみちサービス・レベルアッププラン～」を策定し、効率的かつ透明性の高いみちづくりを進めています。

また、各県において、事業の成果を表す指標(アウトカム指標)を用いて、数値目標を事前に設定し、毎年達成度の評価を行い、その結果を以降の施策・事業に活かすマネジメント・サイクルを実践しています。






▲マネジメント・サイクルのイメージ




▲達成報告書（アウトカム・レポート）




▲業績計画書（アウトカム・プラン）

## 事例2　徹底 したコスト縮減～石巻港雲雀野（ひばりの）地区防波堤整備事業の例

石巻港雲雀野地区防波堤(南)では、新構造の半没水上部斜面ケーソン堤に形状を変更して整備を進めており、従来構造形式に比べ約15%のコスト縮減を図っています。



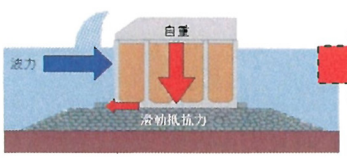

石巻港防波堤(南)の整備状況

### 防波堤構造の見直し

新しい構造形式では、防波堤本体の斜面を利用して水平方向の波力を分散し、鉛直下向きの力を堤体重量に加え、滑動抵抗を増加させることによって、波力を有効に分散させる“半没水上部斜面ケーソン堤”とし、従来構造形式に比べてケーソン断面と基礎構造を小さくすることで、建設コストを縮減しています。

**従来構造形式**

特徴
波力に対して自重で安定を保つため、ケーソン本体及び基礎マウンドが大きくなる。




**新構造形式**

特徴
波力の分散により水平波力は低減され、鉛直波力が自重に追加されるため、ケーソン本体及び基礎マウンドが小さくなる。

